

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第2号

事務連絡（高札場）

☆ 八月例会について

日時 八月六日 午前十時
場所 春日住民センター
大会議室

典

日時、場所にご注意！！
会場準備係（敬称略）
足立幸子・井尻沙江・平岩泰典

☆ 九月例会について

日時 九月十日 午前十時
場所 柏原住民センター
会場準備係（敬称略）
荻野展男・村上章子・関靖代

☆ 丹波古文書倶楽部HPアドレスの再録

新しく入会された方、これでご覧になってない方、常時更新中です。是非、ご覧下さい。
<http://tanbakomon.jyo.jimd.o.com/>

☆ 新資料#18 #19 #20 配布中、未受領の人は小西さんま

発行者 川口丹波守利和
編集者 延陽伯こと岸孝明
発行元 丹波古文書倶楽部

自己紹介（口上）

◆ 篠山市 森田 尚典 様

そもそも「古文書倶楽部」へ入会をするに至ったのは、昨年の4月頃に代表の「川口利和」様に電話で篠山市の人間です、ので、「資格」はないのですが、会費は当然のことながら支払いますので「資料」のみいただきませんか？とお聞きしますと、「席」があるので「どうぞ」と参加をするようにとの返事をいただきました。

それで昨年4月より参加しています。有難う御座いました。

小生は61才からの全くの手習いです。元々骨董品が好きなので、テレビ大阪（東京）の「なんでも鑑定団」という番組があり、その時にそばで「古文書」を開けて読まれていましたのを見て「読めれば」よいなあと思っていました。30年以上前だったと思いますが、「とにかく好きです」ので続けています。

いろんなところの資料館へ行き「見て」います。最近では京阪神の「古本まつり」にも行っており、（古文書がありませんので）

会員の方々今後ともよろしくお願い致します。年齢からいつまで続くかは判りませんが？

「川柳は 柔らか頭 する薬」
「川柳で やわらか頭 して います」 異丹人
（丹波の異なった人間）

純朴でナシ
篠山市 森田尚典

◆ 春日町 川原 邦弘 様
過去帳

越後ノ國ニ辛未睦月丙戌ニ生ル、文学ニ志スモ父ニ一喝サレ断念、裁判所ナル役所ニ入ルモ「人ガ人ヲ裁ク事ニ矛盾ヲ感ジ」五年余ニシテ退職。

勘当同然ニテ上阪ス、其ノ間ニ三ノ役員ニツクモ辞任。三十五才ニシテ「書道」ノ樹海ニ入ル。

「西望書院々長」「日書研不名誉会長」ヲ経テ現在ニ至ル。趣味ハ広ク浅ク、囲碁・俳句・川柳・骨董・書籍ノ収集（五千冊余）但シヘ積読ナリ。

賞罰 有ルヤ無シヤ
四年数カ月前、御丁寧ニモ、胃

・大腸癌ヲ併発シ同時部分切除十時間余、一命ヲ取り止メルニ至ル。悪運強キト言ワル。先祖將又各位ニ支エラレシカ、過去ニ回死ノ淵ヨリ這イ出ス。

近年ニ至リ「軸」「古文書」ナル代物ヲ持チ込やかむ輩アリ、解説マナナラズ、汚名ヲ晴ラサンガ為、当クラブニ入会。少々共、人ノ役ニ立タント欲ス。宜ナル哉

来ル者ヲ拒ミ去ル者ヲ追ウ不心得者也

過日俳句ノ先人ヨリイミジクモ「風狂ノ人」ナルヲ命名サル。
丙甲 水無月 中旬
河原 風狂老人

◆ 春日町 矢持 章一様

達筆で書かれた字が読めない私の地区では二年に一度「文化祭」が開かれます。回を重ねるたびに当初の情熱が薄れていき、展示物も少なくなりまして。村の役員をしていたこともあり、大きくあいたスペースの穴埋めに「区長筆筒」の中から「鹿場古地図」を持ち出して展示しました。その中の絵図の一枚の裏面に山論（山争い）についての記事がありました。（寛文拾年の年号）

ここから問題が発生したのです。「どう書いてあるんや」と聞かれましたが、満足をしてもらえるような回答ができませんでした。この時からもちよもやしたものが残ってしまいました。

このタイミングで「古文書倶楽部」の会員募集を知り、友達のS君を誘って入会をさせてもらったのが当倶楽部入会のなれ初めです。

といっても、なかなかすんなりとは読めず、順番が回ってきそうな時には、二人で合宿をして講師先生の叱咤？激励に反応出来るように努めてきました。まだまだ一人歩きができませんが、熱血指導のあまりに汗をかきながらの鬼講師(失礼)の熱いものを感じながら、年々おいてゆく身体に「学ぶという点滴」打ち、冷や汗を出しつつも、気分的にいつまでも「若者」でいたいと願っています。

情報提供(みちしるべ)

◆ 高見對馬守由緒関連情報

清安寺跡地の現地探訪記事を寄せて下さった山内順子さ

ん、また、「寛政重修諸家譜」の赤井氏略系図コピーを寄せて下さった森田尚典さん、有難うございました。紙面の制約で今回は掲載を見送り、いずれ特集の形でご紹介したいと考えております。

戦国期の丹波の武将につきましては、丹波市立中央図書館郷土資料コーナーに「禁帯出」で閲覧できる左記本が香良の戦いの背景分析始め、赤井家の隆盛と滅亡等詳しいと存じます。

「丹波戦国史」黒井城を中心に「芦田確次・青木俊夫・村上完二・船越昌共著、歴史図書社、昭和48年10月刊(小西敏晴様も所持、お貸しできますとの事)

◆ 新着寄贈資料の紹介

「丹波市内の人口・世帯数の変遷を一冊に 氷上の谷垣さん 大字ごとの資料も」

標記の記事を丹波新聞の5月25日号で見て、古文書を読んだり、地域の歴史を調べたりする時に役立つと思い、早速電話で谷垣昭吉(たにがきあきよし)さんに、冊子を1冊分けて戴きたい旨お伝えしました。

6月10日午後8時前に突然、我が家を訪ねて下さり、長年取り組まれた研究成果「氷上郡・

丹波市人口・世帯数総覧」(第1回大正9年、第20回平成27年までの調査結果の他、古代から現在までの大字・小字を含む人口動態成果)、「丹波市の行政区画変遷一覽」(明治以降現在まで)《福知山線115年のあゆみ》、「平成の大合併に

思う」平成の大合併に伴う歴史性や地域の特徴を無視した全国のおかしな新市町名に対する怒りのまとめ(これはかなりの反響を呼んだそうです)の4冊を丹波古文書倶楽部の活動の一助になればと恵贈いただきました。

こんな冊子があるよ、と会報に載せるのは自由だし、頼まれれば冊子をお分けします、とのことでした。

谷垣さんは法務省職員として定年まで勤められ、伊丹支局への通勤に福知山線を利用したこと、福知山線の歴史を書く決心をされたそうです。

仕事に登記部門だったこともあり、間違いは許さないと云う信念で、確かな事実のみを記録することに徹したそうです。おそらくこれほど正確な記録はJRにもないと自負している、とのことでした。

また、退職を機会に丹波市の国勢調査結果をまとめることに没頭し、調査は古代から現在

へと広がり、江戸時代を調べるため、「丹波志」など手に入る資料を克明に調べて行かれたそうです。その過程で数値化することで見えなかったことが見えてきて、その事の面白さに、時間を忘れて没頭されてこられたそうです。知りたいと思う事に打ち込む楽しさと判る喜びが谷垣さんの研究を支えた事がお話しから感じられました。

そんな事でこの4冊を戴きましたので、皆さん方では是非、有効に活用していただきたいと思えます。ご覧になりたい方は岸孝明まで申し出て下さい。最後に紙面を借りて谷垣昭吉さんにお礼申し上げます。

編集後記(金棒引き)

◆ 自己紹介記事について

自己紹介文の寄稿をお願いしたところ、快く応じて下さった皆様に御礼申し上げます。それぞれ個性ある文章を寄せていただき、感謝しています。

さて、私事で恐縮ですが、8月の後半、ウズベキスタン方面へ旅行するため第4号発行に時間的余裕がありません。

誠に恐縮ですが、八月一日に第3号と第4号両方の自己紹

介文を集約したいと思えます。
出来ますれば、未掲載の方全員
が、この際進んで寄稿していた
だくことを希望します。
順次、地域バランスや経験年
数等を考えながら掲載させて
いただきます。
(文責：延陽伯こと岸孝明
t.kishi@cell.o.ocn.ne.jp)